

* 研究目的

前近代の東アジアでは、国内の戦だけではなく、国家間においても戦争が行われた。その中でも東アジア全体、つまり日・韓・中を巻き込んだ戦争としては「文永・弘安の役（1274・1281）」、「文禄・慶長の役（1592～1598）」が取りあげられよう。

本研究は、これらの戦争がいかなる意図で絵画として描かれ、その絵画がどんな過程を経て今日にまで残っているのか、そして戦争がその後の絵画、ひいては政治・社会・思想などにいかなる影響を与えたのかについて明らかにするのが、その目的である。

* 研究チームメンバーと研究課題

金 泰虎	甲南大学国際言語文化センター 准教授	前近代における日・韓・中を巻き込んだ戦争とその絵画－「文永・弘安の役」や「文禄・慶長の役」を素材に
佐藤 泰弘	甲南大学大学文学部歴史文化学科 教授	「蒙古襲来絵巻」
趙 ギュヒ	韓国 高麗大学校民族文化研究員 研究教授	「文禄・慶長の役」以降における朝鮮士大夫の文化認識と絵画
李 京和	韓国 ソウル大学校文化大学考古美術学科 講師	朝鮮時代後期の絵画に現れる「文日禄・慶長の役」の記憶
李 須恵	財団法人高麗美術館 高麗美術研究所 学芸員	「文禄・慶長の役」以降に朝鮮から来日した図画署画員の絵画
大村拓生	大阪工業大学 講師	南北朝内乱期における丹波の戦と絵画